

令和6年度 第2回佐治地域振興会議 議事概要

日時：令和6年5月23日（木）午後6時30分～

場所：佐治町総合支所 2階 大会議室

〔出席委員〕 12名

小谷繁喜、田中早雄、西尾寛茂、岸田みち代、谷上正樹、阿久津奈穂子、井上茜、
下石聡子、無替幸夫、田中精夫、中家孝、小林憲二

〔スマートエネルギータウン推進室〕 1名

保木本主査

〔事務局〕 5名

下田支所長、下石副支所長兼地域振興課長、上田市民福祉課長、飯田産業建設課長
倉持地域振興課課長補佐

〔日程〕

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議・報告事項
 - （1）脱炭素先行地域について
 - （2）その他
4. 閉会

〔議事概要〕

3. 協議・報告事項

（1）脱炭素先行地域について

【スマートエネルギータウン推進室】（以下【推進室】）資料に沿って説明。

小型の水力発電設備と太陽光発電の導入計画について、地域の再エネ利用や補助金の活用、公共施設への太陽光パネル設置について説明。水力発電設備として、川の水をパイプに入れてタービンを回す方式を導入したいが、工事費が高騰しており、コスト削減のため経路短縮を検討中。

公用車や有償運送車両のEV化やバッテリー交換式のEVやマイクロモビリティの導入も検討しており、再エネ由来の電力の利用も促進していく。

木質バイオマス発電機設備の導入も検討しており、熱を利用して農作物を栽培することもある。また、省エネ改修に関してもニーズを確認しながら継続して取り組む予定である。

10月から地域おこし協力隊の採用を行い、WEB3.0 技術を活用した新たなデジタルコミュニティにより佐治町地域への関心を持ってもらい関係人口を増やす取り組みを行う。これは、山古志村の取り組みを参考にしている。

佐治町地域には様々なご協力や関心が寄せられているので、デジタル技術とコミュニティを活用して支援を行いたい。

【委員】小水力発電の工事期間中に道路規制はあるだろうか。

【推進室】道路沿いに管を埋設して落差を利用して発電する予定です。整備工事が始まると片側通行にする可能性はあります。

【委員】バイオマスの熱を和紙の乾燥に利用することはできるか。

【推進室】そういったことも可能です。

【委員】地域おこし協力隊員は市が直接雇用するのか。

【推進室】隊員は直接雇用ではなく、委託先が雇用することになります。

佐治の取り組みは全国で2例目となります。委託先の株式会社あるやうむはデジタルアートを活用したふるさと納税の実績もあります。

【委員】デジタルアートはデザインやアイデアの帰属はどうなるのか。そのあたりもよく調べておいてほしい。

【委員】地元の高齢者にはデジタルコミュニティの世界を理解するのは難しいが、取り組みとしてはおもしろそうだ。

しかし、コミュニティ内に誰でも参加できることにより、一部の無責任な意見によって地域の課題が解決しないままになることを心配する。

【推進室】隊員の候補者はデジタルコミュニティで名の通った人物を採用する予定であり、地域住民と関わっていける人かどうかは重要なところなので、市も面談をしています。

地域をよく知らない人が、無責任に意見を述べることに懸念を持たれるかと思いますが、良い方向に誘導するために佐治に実際に住む隊員がいるのであり、実績のある（株）あるやうむも調整機能を果たしてくれると考えています。

【委員】隊員の方には、地域に溶け込んでいただいて良い意見を出してもらいたい。

【委員】今後のスケジュールがタイトになり不安があるが、脱炭素先行地域の取り組みや外部の参加者受け入れなど、地域の資源活用に可能性を感じている。

【委員】未来的な施設としての役割を果たすことで、学びのフィールドを提供することもできると思う。

（2）その他

その他の議題なし。

以上、午後7時55分協議事項終了。